

第71回

# YANASE VIETNAM CO.,LTD



●事業内容

研削・研磨消耗品の製造・販売

●YANASE VIETNAM CO.,LTD

Workshop A3, Kizuna Factory, Lot K, Tan Kim Industrial Park, Tam Kim Ward, Can Giuoc Dist. Long An Pro.

●日本本社

兵庫県丹波市山南町谷川1385

●ホームページ

<http://www.yanase-saving.com/index.html>

●お問い合わせ先

Tel: (84) 723733600

Email: [info@yanase-vietnam.com.vn](mailto:info@yanase-vietnam.com.vn)

YANASE VIETNAMは、兵庫県丹波市に本社を置く研削・研磨消耗品のトップメーカーである柳瀬株式会社の100%出資による現地法人として、2014年に設立されました。YANASE VIETNAMは、ホーチミン市南部ロンアン省のKIZUNAレンタルサービス工場にて、研削・研磨消耗品の製造を行っており、日本への輸出と現地での販売を積極的に展開しています。今回は、そんなYANASE VIETNAMの徳岡統括部長にお話を伺いました。

○ベトナム進出の経緯を教えてくださいか？

弊社の親会社である柳瀬株式会社では、研削・研磨用ディスクグラインダーで使用される専用の研磨ディスクを製造しております。近年は、国内市場の伸び悩みもあり、2005年ごろから中国で合弁会社を設立して海外で製造を開始しました。その後、2010年の尖閣衝突事件以降、日中関係が悪くなり、労働コストの賃金高騰によるチャイナ・リスクを意識していた頃、2013年ベトナムで開催された機械加工関連の展示会へ初めて出展した際に、現地のバイヤーからベトナム工場の有無を聞かれて、ベトナムでの現地製造という考えが突然ひらめきました。弊社の研削・研磨消耗品は、部品加工などの製造業で多く使用されており、今後は、日系企業の進出が盛んな東南アジアの市場での販売を拡大したいという考えもありましたの

で、ベトナムをはじめとしたASEAN地域での100%出資の自社工場設立を本格的に検討するようになりました。当初は、インドネシアも進出候補に挙がりましたが最終的には、日系企業の進出が盛んで、政治的にも安定しており、治安もよく人件費も低いベトナムへ進出することに決定しました。ベトナム国内では、北部にするか南部にするかという検討がありましたが、弊社のお客様となりえる部品加工業が比較的南部に多かった為、南部への進出を決定しました。

その後は、様々な工業団地を調査しましたが、中心部から比較的近いという立地条件、日本企業向けへのサポートサービスが充実している点、インフラ整備の面などを考慮して、最終的にKIZUNAレンタルサービス工場への進出を決定しました。弊社の場合、特に大型の機械設備などを使用するものでもありませんので、地盤の硬さが

それほど必要でなかったことも、返って良かったと今では思っています。

○ベトナムでの事業のスタートはいつごろからですか？

ベトナム進出のきっかけとなった展示会への参加が2013年で、ベトナムへの進出を決定したのが2013年ごろですが、2014年には、進出先を決定し法人ライセンスの申請などもスムーズに進み、2014年8月に私が現地に赴任し、9月から稼働を開始しました。

また、2014年5月には、リーダー候補となる人材をすでに採用しており、9月の本格稼働まで、日本で研修を受けてもらいました。実際の製造スタートの際には、KIZUNAのサポートにより、10名のワーカーも比較的容易に採用することができましたので、日本人管理者1名、リーダー3名、ワーカー10名の14





名体制で、無事にスタートすることができました。

### ○御社の事業内容を教えてくださいか？

弊社の製品は、ディスクグラインダーに取り付ける研削・研磨用のディスクです。主に鉄、ステンレス、アルミなどの表面研磨や切断部のバリ取り、溶接部分の研磨に使用されています。研磨用ディスクは、いわゆるサンドペーパーを原材料としており、このサンドペーパーを細かく切断したものをグラインダーの大きさに合わせて直径100mmの円形状に並べたものを基盤に接着して製造します。弊社の製品の特長は、高速回転を行うディスクグラインダーでの使用に耐えられる品質にあります。これにより、他社製品と比較しても作業時間を短縮することが可能です。また、独自の製造方法により目詰まりが起りにくくなっており、寿命も他社製品よりも長持ちするようになっています。金額的には、中国製などと比べると単価は高くなりますが、作業速度の向上や、目詰まりの起こり難さなどの品質面での優位性がありますので、トータル的には、競争力の高い製品であると自負しています。

現在弊社で製造している研磨ディスクは、

使用するサンドペーパーの種類や枚数により6種類に分けられますが、この6種類それぞれに、サンドペーパーの砥粒の大きさにより10段階の粒度が設定されていますので、トータルでは60種類となります。この商品ラインナップの中で、お客様の用途に応じて最適の商品をご提供させて頂いています。

### ○ベトナム人スタッフについてどのように考えていますか？

弊社の研磨用ディスクは、日本では、殆どが自動機によって製造されているのですが、ベトナムでは、自社の製品についてより理解してもらいたいという考えもあり、当初は、日本の20年前と同じように手作業による製造を行いました。すると品質に対する認識の違いから、仕様通りの商品ができませんでした。本来丸い形でなければいけないディスクが、楕円形に歪んでしまっていたり、いびつな形になったりということが結構ありました。最初は、言葉で説明していたのですが、それではなかなか改善が進まなかったため、傘を使って円形を説明したり、日本のビデオを見せて視覚的な方法で指導を行ったりしたところ、理解度が進み、今ではかなり不良率が下がりました。弊社で採用しているワーカーは全て女性ですが、やはり女性の方が真面目で細かい手作業にも向いていると感じています。

### ○ベトナムで事業を行うにあたり苦労されていることはありますか？

弊社の製品では、サンドペーパー、接着剤、鉄軸、基盤などの材料は全て日本から輸入して賄っています。設立前には、サンドペーパーは、もしかすると現地調達が可能ではないかと考えていたのですが、色々調査してみても弊社の製品に使用できそうなサンドペーパーを製造している企業

はありませんでした。

また、段ボールやシールといった副資材は、現地調達しているのですが、思ったほど価格が下がらず、苦勞しています。こういった製品が、ベトナムの物価から考えると比較的高額で、中には日本とそれほど変わらない価格のものもあって、思ったほどコストが削減できていません。今後も継続的に現地での調達に関しては調査を進めていきたいと考えています。

### ○今後の事業展開はどのようにお考えでしょうか？

今年、ワーカーを増員し、更に日本から製造用の自動機械を導入することで、月間の製造枚数を現状から、50%アップまで増産し、不良品率も、0.2%未満を達成したいと考えています。また、これまでベトナムでは製造していなかった鏡面仕上げ用の羽布(パフ)関連製品の製造も行っていく予定です。販売面では、現状、日本への輸出がメインとなっていますが、ベトナム国内をはじめとした、日本以外への販売をより強化していきたいと考えています。YANASE VIETNAMは、柳瀬株式会社の100%子会社ではありませんが、あくまで独立した製造企業として独立採算を目指して経営を拡大して行きたいと考えています。

また、日本本社では2015年度からベトナム人・技能実習生を受け入れています。彼女たちは日本品質の習熟に対する意識は高いので、技能移転として効果を発揮できる環境整備を進めていきます。

弊社は、研削・研磨消耗品に関しては、長年の経験を有しておりますので、研磨関連でお困りごとなどございましたら、是非弊社までご連絡を頂ければと思います。

ありがとうございました。

